

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は、変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

【様式 1】

<エントリーシート>	部門	学校名・氏名
※事務局記入欄	校内研修部門	宇都宮大学教育学部附属中学校
No. : C - 17	活動名 主体性を生かす授業研究 — 経験や立場をこえた同僚性の醸成 —	

課題の設定 : ※活動を行う前に、課題や目標をどのように設定しましたか？視点などを含めて記載してください。

本校では、昨今の予測できない社会の変化にも主体的に向き合っており、その過程を通して自らの可能性を發揮できる、よりよい「未来の創り手」となるための生徒像を定め、教科ごとに「育てたい資質・能力」を設定して授業改善をしていくことを目標とした。その上で教員一人一人が主体的に研究に向き合い、経験や立場をこえて主体性を生かして取り組めるよう、授業実践から成果を見出す研究を行いたいと考えた。

方針・計画 : ※課題を解決するために仮説を立てて、活動内容を組み立てたのか、記載してください。

出発点となる「未来の創り手」となるための生徒像は教科や教員によって異なる。まずは共通認識ができるよう、過去の研究を皆で確認しながら、「未来の創り手」となるための生徒像を話し合うことからスタートすることにした。その後、共有したイメージをもとに、各教科で授業実践しながら、得られた成果をまとめるような手法をとった。そして、経験や立場に違いはあるが、様々な知見をもった教員が多角的な視点で主体性を生かした授業研究ができるよう、全員が積極的に意見交換しやすい雰囲気作りを中心に計画を組んだ。

活動内容 : ※方針・計画に基づいてどのような活動を行ったか、また、複数の活動を展開した場合はその位置づけや関連性を記載してください

まず、職員全体で「未来の創り手」となる生徒像を話し合った。それをもとに、「各教科で育てたい資質・能力」を設定し、授業内容を検討(写真1)して授業実践を行った。校内授業研究会では、職員が各々担当に分かれて(写真2・図1)生徒たちの活動を見取り、授業を通してどのような資質・能力が身についているのか確認した。これを踏まえて教科ごとでも研究を進め、全ての教科で必要とされる「未来の創り手となるための資質・能力」を教員全員で協議しまとめた(図2)。これらの成果を生かした公開研究発表会を行った。

活動の成果 : ※課題や目標に対し、どんな影響、変化あったか、職員や参加者の声など客観的な情報・データとともに記入して下さい。

教科をこえて全教員が話し合いを行ったことで、様々な教科で汎用的な資質・能力が育成されていることが整理できた(図2)。さらに、研究授業や話し合いを重ねる中で、他教科との共通項を見つけたり、資質・能力との関連性を考えたりすることで、学校全体で多角的な視点から授業研究をすることができた。公開研究発表会参加者からは「学校を挙げて、在校生達の姿から必要な目標、そこに至る研究課題を設定された汎用性のある内容で、生徒の資質・能力向上にかかる思いに感銘を受けた。」との声があった。教職員からも「皆がチームで主体的に授業改善に関わっており、附属中の一人一人の先生方から学ぶことが多かった。」など、実践から学ぶ手法をとったことにより、経験や立場をこえて率直な考えをもとに活発な意見交換ができた。さらに、全教員が同じように主体性をもって研究に取り組むことで同僚性も醸成され、他の校内業務も一体感をもって取り組むことができるようになった。

アピールポイント (アイデアや工夫) : ※3~5 つ程度の箇条書きしてください

- 経験や立場をこえてフラットな考え方で授業実践を行い、授業実践の中から得られたことをできるだけ客観的に検証し、成果をまとめている。(=ボトムアップ方式の研究)
- 職員全員が役割につき、主体性を生かした授業研究をおこなっていき体制づくりをとっている。
- 設定した生徒像や資質・能力を踏まえて、教科や教科の枠を越えて授業研究を行っている。
- 全職員が授業改善に主体性を生かして取り組むことで同僚性を醸成し、協力して授業研究を行っている。
- 校内業務でも教員の主体性を生かし、一体感をもって取り組むことができている。

写真1 他教科の授業を皆で検討しあう姿



写真2 研究授業で生徒を見とる姿



図1 全校体制での研究組織

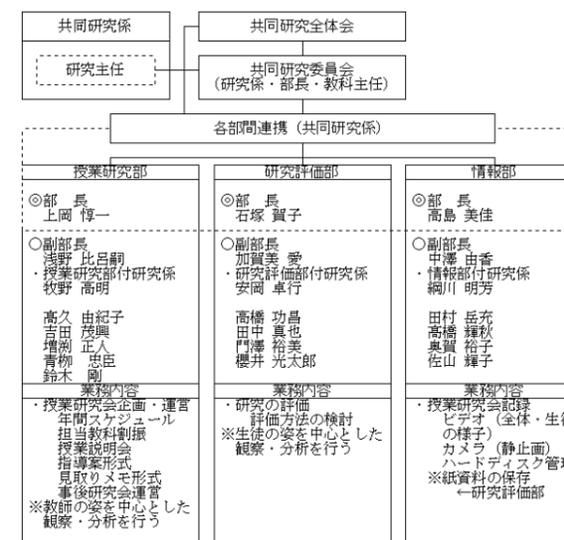


図2 全ての教科で必要とされる

「未来の創り手となるための資質・能力」

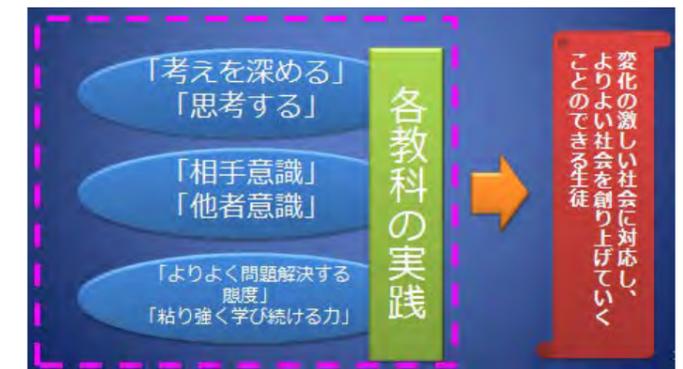


表 「未来の創り手となるための生徒像」と各教科で育てたい「未来の創り手となるための資質・能力」

<p>「未来の創り手」となるための生徒像 変化の激しい社会に対応し、よりよい社会を創り上げていくことのできる生徒</p>	
<p>各教科で育てたい「未来の創り手となるための資質・能力」</p>	
<p>国語科 ・「クリティカルな読みの視点」を生かし、言葉を吟味する力 ・目的や相手を踏まえ、場面や状況を意識して言葉を使いこなす力 ・目的や相手を踏まえ、必要な情報を取捨選択したり活用したりする力 ・自分の思いや考えを、様々な人やものとの関わりで広げたり深めたりしようとする態度</p> <p>社会科 ・正しく社会を見つめ、主体的に社会と関わる人間(力) ・構想力</p> <p>数学科 ・日常の事象を数理的に捉え、数学を活用して論理的に考察する力 ・数量や図形などの性質を見だし、統合的・発展的に考察する力 ・粘り強く考え、その過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度 ・多様な考えを認め、よりよく問題解決する態度</p> <p>理科 ・単なる知識の獲得にとどまらず、主体的に粘り強く学び続ける力 ・課題を解決する力 ・協同性を發揮しうる人間関係を構築する力</p> <p>音楽科 ・曲想と音楽の構造や背景などとの関わりや多様性について考える力 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能 ・音楽表現をするための創意工夫 ・音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる感性</p>	<p>美術科 ・創造的に考えを巡らせる ・自分らしさの意味や価値を追求する ・工夫する</p> <p>保健体育科 ・学びに向かう力 ・他者と協同する力(協同力)</p> <p>技術・家庭科 ・持続可能な社会を創る力 ・生活をよりよくしようと実践する力 ・問題を発見する力 ・互いに協力しながら課題を解決しようとする力 ・課題を解決する力 ・最適解を導き出す力</p> <p>外国語科(英語) ・初めて出会う状況の中で、課題を見出し、それが何なのかを把握し理解できる。 ・論理的・批判的に課題を見つめ、自分なりの考えを構築できる。 ・相手の存在を意識し、相手に応じて伝わりやすく、分かりやすい表現方法を考えられる、また伝達できる。 ・相手の考えを理解し、新しい価値に気付くことで、自分の考えを深めることができる。 ・自分の表現が適切なものかどうかを自己評価したり、協同により相互評価したりしながら判断できる。</p>